



医療法人 真生会

真生会富山病院

SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

第 27 号 令和 3 年 3 月発行

〒 939-0243 富山県射水市下若 89-10

TEL : 0766-52-2156 FAX : 0766-52-2197

<https://www.shinseikai.jp/>

# 地域連携だより



## 医療に求められる美しい精神

院長 まなべ やすひろ  
真鍋 恭弘

この度、医療法人真生会の基本方針の一番目を改定しました。

(改定前) 一、患者本位の医療を実践します。

(改定後) 一、患者の幸福を最も大切にする医療を実践します。

患者本位には、いろいろな考え方がありますが、真生会では「患者本位の医療」を「患者の幸福を最も大切にする医療」と考えています。

「患者の幸福を最も大切にする医療」とは「病気が治ることは大切。幸福になれるかどうかはもっと大切」という気持ちで行う医療です。それは次の姿勢となって現れます。



・患者が幸福になるまであきらめない。

病気を治しても幸福を感じておられなければ終われない

病気が治らなくても幸福を感じていただく方法はある

・患者がもっと幸福になれるよう努力をやめない。

違うアプローチでもっと幸福になっていただくこと (=患者の幸福の最大化) をいつも考える

違うアプローチの代表であるチーム医療を大切にする

以上のことが実践されると、必ず「来られる前よりも帰られる時、より幸福に」なります。

それには、直接、患者さんと接する人だけではなく、患者さんから見られている職員の醸し出す雰囲気も大きく作用します。

「いきいきと働いているな」「楽しそうだな」「明るい笑顔だな」「良い雰囲気の病院だな」

そう感じていただくことが重要です。

基本方針改定に、もう一つの意味があります。それは、「患者の幸福を最も大切にする医療を実践できる私たちこそ幸福です」という意味です。これが真生会が理念に掲げる自利利他の精神です。

哲学者 西田幾多郎は主著『善の研究』の中で「善は美である」と述べています。自利利他の精神ほど美しい精神はなく、その精神を実践する人もまた美しいと思います。

どんなに時代や社会が変わっても、この精神に基づいた医療を実践していきたいと思えます。

# 良い睡眠で心身ともに健康に

耳鼻咽喉科 とくなが たかひろ  
徳永 貴広

1日のおよそ3分の1は寝ています。人生80年とすれば、のべ26年間は寝ていることとなります。起きている間の健康管理には目が向きやすいですが、寝ている間の健康にはなかなか目が向きません。

当院では、睡眠時無呼吸症候群の検査および治療を行っております。睡眠時無呼吸症候群の検査には、簡易検査とフルポリソムノグラフィがあります。

簡易検査は自宅で行う検査で、睡眠時の酸素飽和度や呼吸状態の変化、体位、いびき音を記録します。これによって睡眠時無呼吸やいびきをスクリーニングできます。

フルポリソムノグラフィは一泊入院の検査です。簡易検査ではできない脳波も測定できますので、実際の睡眠時間を元に正確な評価ができますし、睡眠の深さも評価できます。

日中の眠気が気になる方、  
ありませんか？



睡眠時無呼吸症候群と診断された方には、病態に応じた治療を行っています。重症な方にはCPAP（在宅持続陽圧呼吸療法）を導入し、中等症以下の方には口腔内装具（マウスピース）の作成を歯科に依頼したり生活指導を行います。また適応があれば手術療法も行っております。

睡眠時無呼吸症候群は日中の眠気や集中力低下のみならず、生活習慣病の増悪因子とも言われています。ぜひ当院での検査・治療をお勧めいたします。



# 筋膜リリース法の紹介

内科 ささき あきひと  
佐々木 彰一

筋膜リリース法とは、生理食塩水を用いて、どうつう疼痛の原因となっている、重層化した筋膜を改善する方法です。

人の体を連結させ、ひとまとまりにしている組織を、ここでは便宜上「筋膜（英語では Fascia）」と呼びます。筋膜は、長時間同じ姿勢を続けることによって固まったり、強い外力によって傷ついたり、ねじれると、重層化して、トリガーポイントとなります。トリガーポイントは、押すと激しい痛みを伴う部位で、その痛みのために、運動器の可動域制限が出る部位を言います。（右のページに続く）



トリガーポイントは、普通の人にも何十か所と存在し、痛みや、さまざまな不快感の原因となっています。例えば、肩こりに悩んでいる人の多くに、<sup>えきか</sup>腋窩から胸筋の奥に指を入れると激痛を感じる、小胸筋のトリガーポイントがあります。トリガーポイントには、その不快感を起こす原因が、実際に症状を感じる部位と、異なっていることが多いという特徴があります。



令和元年（一昨年）、中国医科大学附属第一病院から研修中の内科医（上の写真左）が筋膜リリース法を見学しました。

筋膜リリース法は、超音波によって、トリガーポイントとなっている重層化した筋膜を同定し、そこをめがけて生理食塩水を注入し、その重積をバラバラにする方法です。特に受傷機転のはっきりした痛みで、骨に明らかな障害がない場合、筋膜リリース法が非常に有効なことがありますので、ご相談いただければと思います。

## 最新MRI装置「アルテア」導入

中央放射線科 科長 <sup>あずましんいちろう</sup> 東 慎一郎

令和3年1月16日に最新の1.5テスラMRI装置「アルテア」が導入されました。

アルテアはスッキリと洗練された外観に、以前よりも検査台が入るトンネル部分が広く、圧迫感が少なくなっています。検査中の騒音も軽減され、検査時間も非常に短くなっており、広範囲をキレイに撮影できます。患者の皆様、医療側の双方にとって非常に有益な装置です。

耳の内リンパ水腫の検索や、手術で金属を入れた人工関節の撮影など、医師の要望に応じられるようになりました。

アルテアを熟知して医師に最良の画像を提供できるよう、全集中で研鑽に努めていきます。アルテアを見たことのない方、興味のある方は、ぜひ当院の中央放射線科にお越しください。診療放射線技師の八田が説明をさせていただきます。



導入されたシーメンス社製MRI装置「アルテア」。科長の東慎一郎技師（右）と八田雅史技師（左）。

# 「訪問看護」から「地域に寄り添う看護」へ

真生会訪問看護ステーションころころ 所長 中井ともこ

真生会訪問看護ステーションころころは、平成18年に開設し、現在は看護師16名、理学療法士2名、言語聴覚士1名（病院兼務）、事務員1名が勤務しています。

利用者は約150名おられます。1日約40件前後を訪問し、月間延べ件数は約950件とコロナ禍でも減ることはありませんでした。「残された日々を家族と共に過ごしたい」と、特にがんの終末期の方などの訪問は増加しています。多くの紹介元は地域のケアマネジャーであり、親切で迅速な対応を心がけております。

当法人の訪問看護は、平成6年10月に医療機関の訪問看護としてスタートしました。当初は外出できなかった頸髄損傷の方を散歩にお連れしたり、1年以上入浴していない方を自宅の五右衛門風呂に入れて差し上げたりすることがありました。そのときの利用者の笑顔は今も忘れることができません。

時は流れ、平成12年の介護保険制度スタートより、在宅療養の環境はみるみる整っていきました。一方、超高齢社会そして在院日数の短縮という背景から訪問看護の利用者層は、より重症度を増し医療ニーズの高い方へと変化していきました。

そのような状況であっても住み慣れた地域で幸せに暮らし続けることを支えるために訪問看護で何ができるだろうかと考えたとき、延長線上にみえたものがありました。それが、「訪問看護」「訪問介護」「泊まり」「通い」の4つのサービスを一体的に柔軟に提供できる看護小規模多機能型居宅介護「ころころの家」です。看護師と介護職員が協働することでより地域に寄り添うケアの実現に近づくと考えています。

看護は、地域全体の動向を見据えた地域を看護する形に変化しており、3月1日開設の「ころころの家」がその一助になれば幸いです。



「訪問看護ステーションころころ」と「ころころの家」のスタッフ



2/19,20に「ころころの家」の内覧会が行われた（上の写真2枚）